

## 空洞内に fungus ball 様を呈し Aspergillosis に酷似した膀胱癌肺転移の 1 例

<sup>1</sup>東海大学 医学部 付属八王子病院 呼吸器内科、  
<sup>2</sup>東海大学 医学部 付属八王子病院 口腔外科

○渡邊 秀裕<sup>1</sup>、角田 篤郎<sup>1</sup>、宇留間 友宣<sup>1</sup>、田崎 徹<sup>1</sup>、坂本 春生<sup>2</sup>

画像上薄壁空洞病変および内部に fungus ball 様を呈し Aspergillosis に酷似した無症状の膀胱癌肺転移の 1 例を経験したので報告する。【症例】67 歳女性、既往：63 歳時に膀胱癌にて膀胱全摘・回腸導管術を施行されている。喫煙歴：10 本 30-60 歳 以後禁煙、高血圧や糖尿病の既往はない。2012 年 4 月の検診にて、2011 年度になかった右状肺の異常陰影を指摘され受診した。血圧 156/93、心拍 79/分、整、SPO2 94% 室内気、咳や痰の呼吸器系臨床症状はなかった。【経過】胸部 CT 画像検索では、右上葉の胸膜に接した径約 3.5cm の空洞病変認め、内部には結節様-fungus ball 様の構造が存在していた。肺野に結節陰影は認められず、胸水や縦隔リンパ節の腫大も認めなかった。その他脂肪肝、左腎の委縮が認められた。血液検査所見は WBC 8400 /  $\mu$ l, CRP 0.07 mg/dl, CEA 2.5ng/ml, CYFRA 2.6 ng/ml, SCC 1.4 ng/ml, Pro-GRP 71.3 pg/ml, Aspergillus Ag 0.3,  $\beta$ -D グルカン 5.0 pg/ml 以下であった。真菌培養検査中であったが、画像からは右上葉の fungus ball を形成した Aspergillosis と判断した。本人と相談の結果、5 月胸腔鏡下切除術 (VATS) を実施した。病理診断は transitional cell carcinoma, urothelial carcinoma の肺転移であった。【考案】空洞病変を認める肺疾患の鑑別としては肺結核、肺化膿症、真菌症、Wegener 肉芽腫症、原発性肺癌などあるが、小山らによれば肺腫瘍の空洞化は転移性肺癌の 4%程度であり、内訳は腺癌 56.1%、扁平上皮癌 21.1%に対し移行上皮癌は 5.3%程度でしかない。孤立性であり空洞を形成し内部に fungus ball 様構造物を呈し Aspergillosis に酷似する転移性肺癌は極めてまれであり感染症診療において臨床的重要であると思われ報告した。非学会員共同演者：須賀淳、中村雄介、山田俊介 東海大学医学部 付属八王子病院 呼吸器外科

## 気管支鏡検査 (TBLB および BAL) にて診断された肺コクシジオイデス症の 1 例

<sup>1</sup>獨協医科大学 呼吸器・アレルギー内科、<sup>2</sup>獨協医科大学 感染制御・臨床検査医学、<sup>3</sup>千葉大学真菌医学研究センター 臨床感染症分野、<sup>4</sup>国立感染症研究所 真菌症担当部

○町田 安孝<sup>1</sup>、福島 康次<sup>1</sup>、三好 祐顕<sup>1</sup>、吉田 敦<sup>2</sup>、奥住 捷子<sup>2</sup>、亀井 克彦<sup>3</sup>、宮崎 義継<sup>4</sup>、福田 健<sup>1</sup>

[背景]肺コクシジオイデス症は米国などの半乾燥地帯で多く報告される真菌感染症である。本邦で報告されている症例は、気管支鏡検査では確定診断が得られず、胸腔鏡下肺切除や開胸肺切除などで診断的治療がなされているケースが多い。本症例は、経気管支鏡的肺生検 (TBLB) および気管支肺胞洗浄 (BAL) にて確定診断を得ることができた貴重な症例と考えられたため報告する。[症例]35 歳男性。XXX8 年 11 月から XX11 年 10 月まで仕事のため米国アリゾナ州ツーソンに滞在していた。帰国後の会社検診にて胸部異常陰影 (右下葉の結節影) を指摘されたため、近病院を受診した。同病院にて気管支鏡検査を施行されたが確定診断には至らず、経過観察となった。約 2 ヶ月後の胸部 CT 検査にても右下葉に空洞を伴った同様の結節影が認められたため、更なる精査目的にて当科を紹介された。再度気管支鏡検査を施行し、TBLB 組織にて形態学的にコクシジオイデス症と診断。BAL 液培養からも真菌コロニーが認められ、遺伝子検査の結果、*Coccidioides posadasii* と診断され、FLCZ にて加療が行われた。[考察]本症例は流行地である米国アリゾナ州に長期間滞在し、屋外での活動も多く、砂塵等に曝露し土壌中の菌体を経気道的に吸入し、感染したと考えられた。*Coccidioides* spp. は非常に感染力が強く、本邦では 4 類感染症に指定されている。シャーレで培養された菌は不用意な取り扱いで汚染し、人への感染を生じるとも報告されている。本症等を疑い検査を行う際には、検体の取り扱いに十分注意が必要である。